

I Tが看護実践および看護研究に及ぼす影響

兵庫県立看護大学 川口孝泰

兵庫県立看護大学附属研推進センター 東 ますみ

21世紀は、情報通信技術すなわち I T (information Technology) の世紀ともいわれ、「I T 革命」の波は医療の分野にも例外なく訪れている。わが国では1997年頃から遠隔医療 (telemedicine) が盛んに行われるようになり、在宅遠隔患者に対する再診料、テレパソロジー (telepathology) における病理診断料などが既に保険点数として認められている。一方、看護の分野では、電話による健康相談やテレビ電話および電子メールを用いた慢性病患者の自己管理支援などの取り組みがみられるが、まだ少数でしかなく、遠隔看護 (telenursing) という言葉や概念は市民権を得ていないのが現状である。しかし、医療環境が在宅医療へと急速に移行しつつある状況を考えると、遠隔看護への取り組みは急務の課題である。

1. 「e-japan 戦略」

わが国では、多額の予算を投じて「e-japan 戦略」と称した I T 環境の整備に取り組み始めている。2005年までには超高速アクセス (目安として 30~100Mbps) が可能な、世界最高水準のインターネット網の整備を促進し、必要とする全ての国民が低廉な料金で利用可能となるインフラの整備を目標としている。このような情報環境の整備により、医療環境は大きく変貌し、看護実践においては、I T 環境を利用した技術開発が急速に求められると予測される。

2. アメリカ・イギリスにおける e-Health の現状

アメリカやイギリスでは、既に「e-Health」という、インターネットなどの情報通信ネットワークを使用して医療や健康に関する情報サービスを、一般消費者 (患者など) に提供することが積極的に行われている。この背景には、消費者が質の高い医療を要求するようになったことや、病院中心の医療から在宅医療へ移行するなどの社会構造が変化してきたこと、また I T に関連する接続費用が軽減して接続性が向上したこと、そして法環境の整備が整ってきたことなどが関係している。

3. Telehealth・telemedicine・telenursing 分野での研究動向

「telehealth」とは、双方向の電信手段によって、離れた場所へ健康サービスを提供するテレコミュニケーション技術であり、「telemedicine」とは、テレコミュニケーション技術を使用して医療技術や医療情報を提供する技術である。「telenursing」すなわち遠隔看護とは、アメリカ看護婦協会によると、遠距離通信のテクノロジーを使用した看護の実践と定義され、患者の健康状態を示す情報を取得し、治療的介入や処方を行ったり、双方向の映像のやりとりなどを通して、ケアや患者教育を行う看護実践とされている。これらの研究の動向を、看護文献データベース CINAHL から文献数の推移で見ると、1995年以降から年々増加傾向にあり、I T を利用したケアの実践が検討

され始めていることがわかる。

4. 次世代型遠隔看護システムの概要

われわれは、兵庫県立看護大学附属研推進センターを拠点として、一定規模の地域を1ユニットとした、次世代型遠隔看護システムの構築を目指している。一定規模の地域とは、担当看護職者がクライアントのところへ気軽に訪問できる範囲を考えている。なぜなら、ITを通じたケア実践を成立させるためには、担当看護職者とクライアントの人間関係の成立、そして定期的な対面でのケアも必要不可欠であると考えからである。その具体的なシステムを図1に示した。

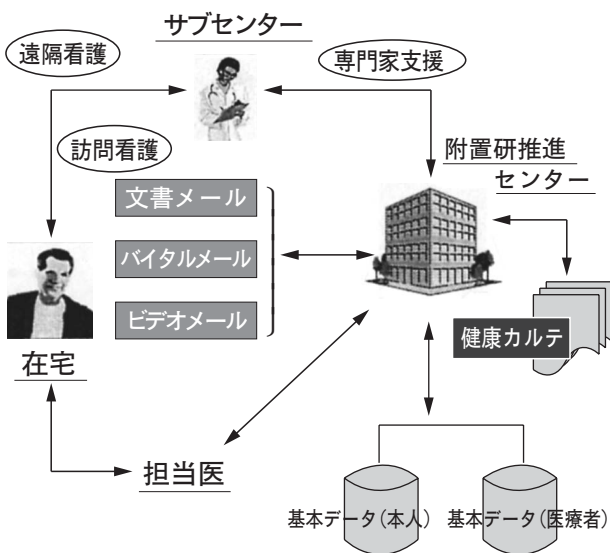


図1 次世代型遠隔看護システム

5. 兵庫県立大学附属研推進センターにおける取り組み

われわれは、兵庫県立大学附属研推進センターのホームページを作成し、その中に、遠隔看護の実践を行う「ケア支援システム」というページを開設した。このシステムの目標は、①セルフケアレベルに応じた健康管理、②生活習慣病者への自立支援、③術後患者の回復管理、④退院後患者の継続看護、⑤介護者・看護者への支援である。遠隔看護を実践するために取得する看護観察情報としては、ビデオメール・バイタルメール・文書メールを用いる。これらを「表情分析」や「カオス分析」などを行うことで、健康状態をチェックし、クライアントへ返信する。クライアントは自分自身の健康状態の結果を、1ヶ月単位で画面上から把握することができるため、自己の健康管理行動に役立てることができる。また、「健康関連情報」のページを開設し、健康に関する最新情報を自ら得ることができるようにした。

IT化が進む現代において、一人一人の健康行動を継続的に支援できる専門家として看護職者の果たす役割は大きく、遠隔看護の実用化が期待される。